

目黒道琢の事蹟について

中 島 康 伸

目黒道琢は、多紀元孝らとともに医学における考証学の基礎をなした人物として知られる。また臨床的方面では、名著『餐英館療治雑話』を撰述し、今日もなお我々に矢数道明『臨床応用漢方処方解説』・山本巖『東医雑録』などを通じて影響を及ぼしつづけている。しかしながら、道琢の履歴、他の著述、業績などについてはこれまでほとんど明らかにされていない。

演者はこのたび東京市ヶ谷、月桂寺に存する道琢の墳墓を調査し、その碑文を拓本にて入手。さらに寺側の協力によって道琢直系の末裔、目黒元作氏が出身地福島県河沼郡柳津町飯溪に現住することをつきとめ、同家を訪れた結果、家系図や道琢の肖像など新出の資料を得た。また各図書館に伝存する著書についても調査を行った。これらに基づき、以下道琢の事蹟について報告する。

目黒道琢の履歴

目黒家所蔵の系譜によれば、畠山重忠の弟重行が伊勢目黒郷に住み、これを氏とした。その後目黒氏は、会津野老沢飯溪に移り、現在に至っている。道琢は目黒家二十五代、伊左衛門重満の次男として生まれ、幼時より神童の誉が高かった。系譜には、

尚忠、小字嘉謙、初メ豊全、重満二子、後、造祖重忠ノ諱ヲ用ヒ尚忠ト改ム、医ヲ業トシ道琢ト号ス、母斉藤氏、元文四年乙未三月十日生、初メ会津若松愛宕町保科家侍医平井喜哲ニ就キ医学ヲ学ヒ、師命ニヨリ平井氏ヲ昌シ、後、江戸ニ出テ、典薬頭今大路道三門ニ入り師トシ、医伝秘旨肄ヒ、道三偏諱ヲ賜ヘテ、道琢ト称シ、更ニ目黒氏ニ復シ、徳川將軍家、道琢ノ医能ヲ賞シ幕医トナシ法眼ニ叙ス、邸ヲ賜リ江戸ニ住ス、子孫業ヲ永ク継キ江戸ニ在リ、寛政十年戊午八月三十日卒、法名杏林院一道自貫居士

とある。道琢は飯溪とも号しているが、これは生家の地名に由来する。

先述の墓碑文は多紀元簡が撰したものであるが、これに

よれば、多紀元孝が明和二年医学館を設立した際、道琢は市井の医者であったにもかかわらず破格の扱いを受けて招かれ、寛政三年助教となった。当時すでに道琢の医界における名声が不動のものであったことがうかがえる。道琢は人々の称賛を受けつつ医学館に三十四年間奉職し、寛政十年六月、將軍家齊公に謁見。法眼に叙せられた。

生没年に関し、碑文は寛政十年八月晦日と記すのみであるが、目黒家系譜には元文四年三月十日生、寛政十年八月三十日没と明記される。森潤三郎『多紀氏の事蹟』などでは七十五歳で没したことになっているが、系譜にしたがい六十歳で死没したと見る方が穏当と考えられる。

父の二十五代目伊左衛門重満の長男は豊昌といい、道琢は次男であった。道琢には三男三女があり、長男太郎は豊昌に子がなかったため養子となって本家を継いだ。現在の元作氏の家筋である。次男遵養は道琢の後を継ぎ、三男自琢は官医吉田家の養子となった。いずれも道琢に匹敵するほどの業績は残していないが、自琢には『南陽方考』の著述があったとされる。長女は出雲松江侯の後宮に奉仕し、次女は官医須田氏に、三女は官医杉枝氏に嫁いだ。医学館

における人望の厚かったことが察せられる。

道琢門下には、考証学者、医家として名高い伊沢蘭軒・鈴木良知らがいる。彼らの学問も、道琢らが基礎を確立した考証学の客観・実証的方法論の延長線上に築かれたものであり、のちに山田業広・森立之らの業績につながった。

目黒道琢の著述

『騷家医言抄書』の騷先生著述目録小引によれば、『靈枢義』『傷寒論集解』『金匱標註』『難経筆記』『神農本經釈』『傷寒論合纂』『揆穴編』『雪菴隨筆』『騷家医言』『騷家医言統編』『雪菴文章』『雪菴詩草』『医事百問』『雪菴試効』『葉議』『医語録』などがあつたとされるが、現存するものは京大富士川文庫の『傷寒論集解』『騷家医言』、武田杏雨書屋の『騷家医言抄書』などに過ぎない。現存の『傷寒論集解』は仲景自序の部分のみで飯溪遺稿抜筆が附載される。飯溪遺稿抜筆からは、塾中常務・授読規則など道琢家塾の様子がうかがえる。『騷家医言』は三男自琢が『雪菴隨筆』より抄出・校正したものである。他に口訳として、ここぶる明快で現在でもなお運用価値の高いものとされている『養英館療治雑話』がある。これは写本として数本伝え

られているが、内容に錯誤が多く、今後の校訂が必要である。その中でも内容の整っているものは、京大富士川本である。

江戸後期の日本伝統医学において、あらゆる面で他派を凌駕しつつあった考証学派の始祖道琢に再び光をあて、その遺業を正しく評価することは今後の漢方研究上においても極めて有意義なことと考える。

村医と著述

—河内国坂村三浦ランブ蘭阪の場合—

末 中 哲 夫

近世後期、京阪地区の在村儒医の著述を手掛りとして、諸分野にわたる考察の実証性と、文化活動の状況の一端をのべる。

〔資料〕 大阪府枚方市牧野坂2—7—29、三浦義徳氏

(第33代、医院内科開業)

〔家系〕 三浦義明…20 義信—21 信道—22 定道—23 秀道

三浦玄丹…26 春道—27 義方—28 蘭阪—29 良道(下略)
号梅林軒

〔蘭阪〕

明和2—天保14・11・15、79歳。名義徳、字季行・子行・

1765—1843 士行・宜登古。号蘭阪・南郊・出雲行者・括囊館・醉古

堂など。通称玄純。家名玄順堂。

〔著作〕

医書…衍義傷寒論・傷寒論逸・九卷類聚・爾雅名物小
識・名物撫古小識・難經辨註・難經正文・治痘小識・